関西大学オープンバッジ発行一覧

関西大学では、学内における様々なプログラム等の認定に際し、従来の紙媒体の修了証に代わる証明としてオープンバッジ（デジタル証明書）を授与するものがあります。オープンバッジを活用することにより、どのような科目、単位を修得してきたかを示す「成績証明書」に加え、どのような能力を習得したのかという学習歴を証明することができるようになります。
本学は一般社団法人オープンバッジ・ネットワークに入会しており、そのシステムを活用し、オープンバッジを発行しています。ぜひオープンバッジの取得を目指してみてください。

【オープンバッジとは？】
オープンバッジとは、強固なセキュリティーシステムで偽造・改ざんを防ぐことのできる国際技術標準規格のデジタル証明書です。画像に埋め込まれた「メタデータ」で、保有する資格や学習の成果をオンライン上で簡単に共有・送信・公開できます。オープンバッジを電子メール署名や履歴書に貼り付けたり、ソーシャルメディア(Twitter、Instagram などの SNS)、ウェブサイトといったさまざまなプラットフォームに載せてアピールすることが可能です。就職活動においてもデジタル履歴書の普及が進めば、オープンバッジが当該学生のスキルを証明する手段として活用することができます。海外では既に普及しており、日本でも導入する大学や企業が増えつつあります。
＊オープンバッジの詳細につきましてはこちらをご覧ください。
一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク　https://www.openbadge.or.jp/

全学プログラム（正課授業）

AI・データサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）〔AI Data Science Education Program（Literacy）〕

＜説明＞
政府が主導する「AI戦略」では、未来への基盤作りとして、高等教育へのAI教育の導入・推進が目標に掲げられています。関西大学においても、人工知能（AI）やデータサイエンス（DS）の技術は大学生の誰もが有する基礎的なスキルと捉え、全学生を対象にしたリテラシー教育として科目を設置し、体系的な教育を行っています。
本プログラムは、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、理解し、活用する基礎的な能力を育成することを目的としています。
入門教育となるリテラシーレベルでは、さまざまな専門分野における AI・データサイエンス技術の活用事例を各学部教員がリレー形式で紹介しています。さらには、AI・データサイエンス技術の開発に関わる教員の実例にも触れ、データの統計学的な取り扱いとAI特有のデータ処理技法に関する知識を身につけることができます。
なお、本プログラムは、2022 年度に文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されました。

＜取得条件＞
プログラムを構成する以下の2 科目 4 単位 を修得すること
「活用法を見聞する AI ・データサイエンス 」 2 単位
「活用法を体験する AI ・データサイエンス 」 2 単位

＊「AI ・データサイエンス教育プログラム」の詳細につきましてはこちらをご覧ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/ds/

＜対象者＞
全学部学部生

＜認定部局＞
関西大学データサイエンス教育プロジェクト

AI・データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）〔AI Data Science Education Program（Advanced Literacy）〕

＜説明＞
政府が主導する「AI戦略」では、未来への基盤作りとして、高等教育へのAI教育の導入・推進が目標に掲げられています。関西大学においても、人工知能（AI）やデータサイエンス（DS）の技術は大学生の誰もが有する基礎的なスキルと捉え、全学生を対象にしたリテラシー教育として科目を設置し、体系的な教育を行っています。
本プログラムは、数理・データサイエンス・AIを活用して様々な課題を解決するための実践的な能力を育成することを目的としています。
実践基礎となる応用基礎レベルでは、統計学に加えて、機械学習、深層学習、ファジィ理論等の基礎理論について実践を交えて学びます。さらに、社会のあらゆる活動をデータ化し、蓄積したビッグデータに対して、統計処理技術、AI技術を駆使して新たな知見を獲得する基礎的な技能を身につけます。このことにより、データサイエンスを実践するプロセスならびに、実社会でデータを利用する上で必要となるプライバシー保護や情報セキュリティ、倫理について理解すること、また、AIやデータエンジニアリング技術をもとにデータを加工、分析し、その結果を表現する能力を身につけることができます。
なお、本プログラムは、2023年度に文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に認定されました。

＜取得条件＞
プログラムを構成する以下の2科目4単位を修得すること
「社会のためのデータサイエンス実践基礎」2単位
「AI・データエンジニアリング実践基礎」2単位

＊「AI ・データサイエンス教育プログラム」の詳細につきましてはこちらをご覧ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/ds/

＜対象者＞
全学部学部生

＜認定部局＞
関西大学データサイエンス教育プロジェクト

関西大学SDGsラーニングプログラム ※正課外の指定プログラム等への参加含む

＜説明＞
本学では、環境保全やSDGs等に関する取り組みを積極的に行ってきました。教育面においては、既存の環境に関わる科目に加え、2022年度より共通教養教育科目 関西大学科目群（戦略トピックス）を設置し、今期のテーマとして「SDG s 」および「カーボンニュートラル」を設定しました。SDGsへの理解を深めるための科目「SDGs入門」および「SDGsの実践」、環境問題について総括的に学ぶ科目「環境問題と環境政策のルーツ」等を開講し、学部を問わず多くの学生が履修しています。
このように未来社会を担う学生一人ひとりがSDGsに代表される社会課題の解決に関するテーマや領域を学んだことを証明する「関西大学SDGsラーニングプログラム」を2023年度より設置します。
このプログラムは共通教養科目の指定科目および正課外のSDGsに関する実践的なプログラムで構成し、修了者にはデジタル証明（オープンバッジ）を発行します。

＜取得条件＞
次の修了状況に応じて、関西大学SDGsラーニングプログラムの修了者として認定します。
■関西大学SDGsラーニングプログラム（基礎）
①関西大学SDGsラーニングプログラム指定科目のうち「SDGs入門」または「SDGsの実践」を必須として指定科目から合計３科目を修得
■関西大学SDGsラーニングプログラム（実践）
次の①および②を満たすこと
①関西大学SDGsラーニングプログラム指定科目のうち「SDGs入門」または「SDGsの実践」を必須として指定科目から合計３科目を修得
②正課外の指定プログラム等に参加

＊「SDGsラーニングプログラム」の詳細につきましてはこちらをご覧ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/activities/detail/entry070421.html

＜対象者＞
全学部学部生

＜認定部局＞
関西大学SDGs推進プロジェクト、環境保全委員会

学部プログラム（正課授業）

関西大学文学部 日本語教師養成講座

＜説明＞
関西大学文学部では、国内外で日本語を教える専門能力を持つ人材を育成するために、日本語教師としての専門的な知識・技術を身につけるためのプログラムとして、日本語教師養成講座を開設しています。文学部の日本語教師養成講座は、言語学研究、国語学概論、日本語学などの言語分野科目を充実させているところに特徴があります。日本語教授法、日本語教育方法論、日本語教育授業分析といった教育分野科目も充実しています。2019年度入学生からは日本語教育実習も始まり、実践の現場についての理解をより深めることができます。

＜取得条件＞
関西大学文学部に所属し、文学部所定の単位を取得すること。詳細は該当入学年度のHAND BOOK（大学要覧）参照のこと。
（ご参考）
＜関西大学大学要覧 2020抜粋＞https://acrobat.adobe.com/id/urn:aaid:sc:AP:e29da5b5-54bb-40d8-96f0-7bfc0debad34
＜関西大学大学要覧 2019抜粋＞https://acrobat.adobe.com/id/urn:aaid:sc:AP:e250155a-58a6-42e2-8ebc-c1e0d20f5354

＜対象者＞
関西大学文学部生

＜認定部局＞
関西大学文学部

関西大学 商学部AI・データサイエンス教育プログラム（ビジネス応用基礎）

＜説明＞
商学部ではビジネスや会計の学びに加えて、実践的なデータサイエンスのリテラシーを修得することを目的に、ＡＩ・データサイエンスに関する知識・技術を体系的に学ぶ機会を提供します。

＜取得条件＞
以下のプログラム科目から2科目4単位を修得すること。

経営情報論（２単位）、データサイエンス（２単位）

＜対象者＞
関西大学商学部学生

＜認定部局＞
関西大学商学部

関西大学外国語学部 日本語教師養成講座

＜説明＞
関西大学外国語学部「日本語講師養成講座」は、日本語教育機関の告示基準（法務省入国管理局平成28年7月22日策定）第１条第１項第13号ロで求められた日本語教育に関する科目28単位以上を修得する教育課程であることを証します。
本学部では、日本語を母語としない人々に対して日本語を教えるための能力を養成するために本講座を設置しており、受講生は日本語教師養成に必要な教育内容として文化庁により提示されている領域に沿った、「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」の5つの科目群からそれぞれ必要単位を満たして履修することにより、日本語教育の専門的知識を学んでいます。
本講座の修了者は、これらの日本語教育に関する専門知識を身につけたうえで、必修である「教育実習」において、実際に日本語を母語としない日本語学習者を対象にした教育実習を経験しています。
本学部の専門科目である外国語教授法や言語習得理論、異文化コミュニケーションなど、本学部の専門分野を活かした資格です。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・専門教育科目の中から必修科目を含む指定された科目28単位を修得
・詳細は該当入学年度の学部要項を参照のこと。
（ご参考）＜学部要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＊「日本語講師養成講座」の詳細につきましては、こちらをご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/fl/career/career.html

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 言語コミュニケーション教育プログラム
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language and Communication Education Program〕

＜説明＞
本学部では専門的学問領域である言語コミュニケーション教育、言語分析、地域言語文化、異文化コミュニケーション、通訳翻訳の5つのプログラムが設置されています。
専門領域についての知識と技能を活用し、グローバルな視点に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ「考動力」を発揮して社会に貢献できる人材を育成するために本プログラムを設置しており、受講生は各領域の専門知識を身につけています。
言語コミュニケーション教育プログラムは、言語習得やコミュニケーションの基礎理論と外国語（英・中・日）の学び方、教え方を実践的かつ科学的に学ぶプログラムです。本プログラムは、各言語の「言語教育学」や「第二言語習得論」などからなる基盤科目群と、外国語学習者論や指導・評価法などの理論と実践に関わる発展科目群から構成されています。それらを履修し「教える」ことと「学ぶ」ことの理論や知識・技能を身につけ、自身が優れた外国語学習者になると同時に、そのような学習者を育成する教育力を養成します。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・言語コミュニケーション教育プログラムにおける、基幹科目２科目４単位以上を含め、発展科目と合わせて７科目14単位を修得すること
・詳細は該当入学年度の学部要項参照のこと
（ご参考）＜学部要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＊「言語コミュニケーション教育プログラム」の詳細につきましては、こちらをご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/fl/education/five.html

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 異文化コミュニケーションプログラム
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Intercultural Communication Program〕

＜説明＞
本学部では専門的学問領域である言語コミュニケーション教育、言語分析、地域言語文化、異文化コミュニケーション、通訳翻訳の5つのプログラムが設置されています。
専門領域についての知識と技能を活用し、グローバルな視点に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ「考動力」を発揮して社会に貢献できる人材を育成するために本プログラムを設置しており、受講生は各領域の専門知識を身につけています。
異文化コミュニケーションプログラムは、（1）人間の言語／非言語コミュニケーションのプロセス、文化の多様性、多文化共生などの基礎概念を学び、効果的な異文化間コミュニケーションのあり方を探る基幹科目群と、（2）ビジネス、観光、メディア、国際協力・ボランティアなどの具体的なコンテキストの下でのコミュニケーションについて考える科目、およびコミュニケーション研究の視点や方法論に関する科目からなる発展科目群で構成されています。
それらの基幹科目と発展科目の履修を通して、対人コミュニケーションのプロセス、コミュニケーションと文化の関係、文化の継承と変化、人間の心理と文化の関係などを理解するとともに、異なる文化背景をもった人が出会ったときに起こる問題とその解決方法について学びます。その際、単なる知識の獲得にとどまらず、実践的な異文化間コミュニケーション能力を養成します。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・各プログラムにおいて、基幹科目２科目４単位以上を含め、発展科目と合わせて７科目14単位を修得
・詳細は該当入学年度の学部要項参照のこと
（ご参考）＜学部要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/
上述の必要単位の修得を通して、人間の文化とコミュニケーションに関わる知識と、文化背景の異なる人のあいだや多様な地域間の交流、交渉、相互作用において必要なスキルを身につける。

＊「異文化コミュニケーションプログラム」の詳細につきましては、こちらをご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/fl/education/five.html

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 言語分析プログラム
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language Analysis Program〕

＜説明＞
本学部では専門的学問領域である言語コミュニケーション教育、言語分析、地域言語文化、異文化コミュニケーション、通訳翻訳の5つのプログラムが設置されています。
専門領域についての知識と技能を活用し、グローバルな視点に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ「考動力」を発揮して社会に貢献できる人材を育成するために本プログラムを設置しており、受講生は各領域の専門知識を身につけています。
言語分析プログラムは、言語の仕組みや機能について学ぶプログラムです。言語自体がもつ、音声・音韻、語彙と意味、文法、談話、運用などさまざまなレベルにおける仕組みやルールを扱う基盤科目群と、言語政策や言語接触など言語と社会の関わりを学ぶ発展科目群があります。また、それらには各言語（英語、中国語、日本語）の個別的特徴を考察する科目と、どの言語にも共通する普遍的特徴に注目するものが含まれます。これらの科目を履修することで、言語について系統的に学び、深い理解を得ることができます。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・各プログラムにおける、基幹科目２科目４単位以上を含め、発展科目と合わせて７科目14単位を修得
・詳細は該当入学年度の学部要項参照のこと
（ご参考）＜学部要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＊「言語分析プログラム」の詳細につきましては、こちらをご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/fl/education/five.html

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 地域言語文化プログラム
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Area Studies Program〕

＜説明＞
本学部では専門的学問領域である言語コミュニケーション教育、言語分析、地域言語文化、異文化コミュニケーション、通訳翻訳の5つのプログラムが設置されています。
専門領域についての知識と技能を活用し、グローバルな視点に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ「考動力」を発揮して社会に貢献できる人材を育成するために本プログラムを設置しており、受講生は各領域の専門知識を身につけています。
地域言語文化プログラムは、地域固有の言語文化を学ぶとともにグローバル社会が求める異文化理解力を養うプログラムです。本プログラムは、地域固有の文化を学ぶ基幹科目群と、言語と文化から地域を複合的に分析する発展科目群で構成されています。これらを履修することで、多言語・多文化社会での共生と相互理解に必要な知見、見識を養い、社会の問題解決に応用できる異文化理解力を養成します。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・各プログラムにおける、基幹科目２科目４単位以上を含め、発展科目と合わせて７科目14単位を修得
・詳細は該当入学年度の学部要項参照のこと
（ご参考）＜学部要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＊「地域言語文化プログラム」の詳細につきましては、こちらをご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/fl/education/five.html

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 通訳翻訳プログラム
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Interpretation and Translation Program〕

＜説明＞
本学部では専門的学問領域である言語コミュニケーション教育、言語分析、地域言語文化、異文化コミュニケーション、通訳翻訳の5つのプログラムが設置されています。
専門領域についての知識と技能を活用し、グローバルな視点に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ「考動力」を発揮して社会に貢献できる人材を育成するために本プログラムを設置しており、受講生は各領域の専門知識を身につけています。
通訳翻訳プログラムは、通訳・翻訳に対する社会的要請に応え、高度な言語運用能力と異文化コミュニケーション能力の育成を目指すプログラムです。通訳翻訳の理論と実践両面を学ぶ基幹科目群と、様々なテーマ・分野の翻訳や、観光通訳などの実践場面でのフィールドワークなどを含む発展科目群を履修しながら、国際コミュニケーション・スペシャリストにふさわしい教養と総合的な語学力を養います。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・各プログラムにおける、基幹科目２科目４単位以上を含め、発展科目と合わせて７科目14単位を修得
・詳細は該当入学年度の学部要項参照のこと
（ご参考）＜学部要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＊「通訳翻訳プログラム」の詳細につきましては、こちらをご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/fl/education/five.html

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 副専攻言語（ドイツ語）
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language Minor (German)〕

＜説明＞
副専攻言語科目は、クロス留学の目的である2 言語習得を目指すために設けられた科目です。
副専攻言語科目を履修する学生は、まず主専攻言語として英語を学びながら副専攻言語としてドイツ語を学んでいます。
必須として課しているスタディ・アブロード・プログラムにおいて、留学先がドイツ語圏であり、クロス留学として主専攻言語である英語とドイツ語および専門科目を履修しています。
副専攻言語（ドイツ語）のバッジ取得者は、場面や目的に応じて、ドイツ語で意思の疎通を取ることができ、自分の意見を適切に伝えることができます。また、留学プログラムにより、多角的な視野で物事を考えられる国際感覚を身に付けています。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・クロス留学修了
・副専攻言語科目（「副専攻言語（ドイツ語）クロス留学」「副専攻言語（ドイツ語）Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ各ａ・ｂ」）すべてを修得

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 副専攻言語（フランス語）
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language Minor (French)〕

＜説明＞
副専攻言語科目は、クロス留学の目的である2 言語習得を目指すために設けられた科目です。
副専攻言語科目を履修する学生は、まず主専攻言語として英語を学びながら副専攻言語としてフランス語を学んでいます。
必須として課しているスタディ・アブロード・プログラムにおいて、留学先がフランス語圏であり、クロス留学として主専攻言語である英語とフランス語および専門科目を履修しています。
副専攻言語（フランス語）のバッジ取得者は、場面や目的に応じて、フランス語で意思の疎通を取ることができ、自分の意見を適切に伝えることができます。
また、留学プログラムにより、多角的な視野で物事を考えられる国際感覚を身に付けています。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・クロス留学修了
・副専攻言語科目（「副専攻言語（フランス語）クロス留学」「副専攻言語（フランス語）Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ各ａ・ｂ」）すべてを修得

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 副専攻言語（ロシア語）
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language Minor (Russian)〕

＜説明＞
副専攻言語科目は、クロス留学の目的である2 言語習得を目指すために設けられた科目です。
副専攻言語科目を履修する学生は、まず主専攻言語として英語を学びながら副専攻言語としてロシア語を学んでいます。
必須として課しているスタディ・アブロード・プログラムにおいて、留学先がロシア語圏であり、クロス留学として主専攻言語である英語とロシア語および専門科目を履修しています。
副専攻言語（ロシア語）のバッジ取得者は、場面や目的に応じて、ロシア語で意思の疎通を取ることができ、自分の意見を適切に伝えることができます。また、留学プログラムにより、多角的な視野で物事を考えられる国際感覚を身に付けています。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・クロス留学修了
・副専攻言語科目（「副専攻言語（ロシア語）クロス留学」「副専攻言語（ロシア語）Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ各ａ・ｂ」）すべてを修得

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 副専攻言語（中国語）
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language Minor (Chinese)〕

＜説明＞
副専攻言語科目は、クロス留学の目的である2 言語習得を目指すために設けられた科目です。
副専攻言語科目を履修する学生は、まず主専攻言語として英語を学びながら副専攻言語として中国語を学んでいます。
必須として課しているスタディ・アブロード・プログラムにおいて、留学先が中国語圏であり、クロス留学として主専攻言語である英語と中国語および専門科目を履修しています。
副専攻言語（中国語）のバッジ取得者は、場面や目的に応じて、中国語で意思の疎通を取ることができ、自分の意見を適切に伝えることができます。また、留学プログラムにより、多角的な視野で物事を考えられる国際感覚を身に付けています。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・クロス留学修了
・副専攻言語科目（「副専攻言語（中国語）クロス留学」「副専攻言語（中国語）Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ各ａ・ｂ」）すべてを修得

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 副専攻言語（朝鮮語）
〔Kansai University Faculty of Foreign Language Studies Language Minor (Korean)〕

＜説明＞
副専攻言語科目は、クロス留学の目的である2言語習得を目指すために設けられた科目です。
副専攻言語科目を履修する学生は、まず主専攻言語として英語を学びながら副専攻言語として朝鮮語を学んでいます。
必須として課しているスタディ・アブロード・プログラムにおいて、留学先が朝鮮語圏であり、クロス留学として主専攻言語である英語と朝鮮語および専門科目を履修しています。
副専攻言語（朝鮮語）のバッジ取得者は、場面や目的に応じて、朝鮮語で意思の疎通を取ることができ、自分の意見を適切に伝えることができます。また、留学プログラムにより、多角的な視野で物事を考えられる国際感覚を身に付けています。

＜取得条件＞
・外国語学部生
・クロス留学修了
・副専攻言語科目（「副専攻言語（朝鮮語）クロス留学」「副専攻言語（朝鮮語）Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ各ａ・ｂ」）すべてを修得

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学外国語学部 data science

＜説明＞
現代の情報社会において注目されている「データサイエンス」は、人工知能（AI）、統計学、テキストマイニング、データ分析などの複数の分野の知識やスキルを必要とします。本プログラムでは、それらの知識やスキルを習得し、データから価値を生み出したり、引き出したりする方法を学びます。具体的には、「データサイエンス入門」では、大学での学びに求められる情報リテラシーの習得・維持・向上をめざす意図的な活動と位置づけます。そのためには、情報収集・分析・判断により情報の価値を見抜くことの大切さを理解し、それらを編集・発信・共有する基礎的能力を身につけます。その上で、それらの情報を主体的に使いこなす能力を身につけ、ICT環境を課題解決に役立てる素地を養います。次に、「データサイエンス発展」（データ解析のためのプログラミング）と「データサイエンス発展」（自然言語処理技術を活用するためのプログラミング）では、データ解析ではR、自然言語処理ではPythonといったプログラミング言語を使用し、ブラックボックスになりがちなデータサイエンスで使用される分析方法を完璧に理解し、習得することを目指します。

到達目標は以下の3観点です。
1. 知識・技能
データサイエンスの基礎知識の習得・維持・向上をめざす。
2. 思考力・判断力・表現力等の能力
データの活用で，思考力・判断力を磨き，それを用いた表現力を涵養する。
3. 主体的な態度の観点
情報を適切に活用して，独創性，創造性のある思考・態度を産み出すことができる。

＜取得条件＞
外国語学部に所属する学部生で、以下の二つの条件を満たした者。
1）「データサイエンス入門」修得
2）以下の2つの科目のうち、どちらかを修得
　「データサイエンス発展」（データ解析のためのプログラミング）
　「データサイエンス発展」（自然言語処理技術を活用するためのプログラミング）

＜対象者＞
関西大学外国語学部生

＜認定部局＞
関西大学外国語学部

関西大学 総合情報学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）

＜説明＞
本プログラムは、学部の複合的な学びを実現するための指針である3つの系（メディア情報系、社会情報システム系、コンピューティング系）とこれらの領域において、数理・データサイエンス・ＡＩを活用するために必要となる、基礎的な数理的素養、データサイエンス、データエンジニアリング、AIに関する基礎知識及び実践的能力を体系的に学ぶ機会を提供します。
本プログラムは、情報学を学んでいくうえでコアとなる「基幹科目（必修科目）6科目」と実習科目1科目で構成されており、卒業時には自動的に修了することとなります。
また、本プログラムは、関西大学で全学的に実施している「AI・データサイエンス 教育プログラム（リテラシーレベル）」と本学部で実施する3つの系を柱とする専門教育をつなぐ、「橋渡し教育」として位置付けています。

＜取得条件＞
本プログラムを構成する以下の7科目 13単位 を修得すること。
「情報と倫理（2単位）」「情報処理（2単位）」「コンピュータの言語（2単位）」「コンピュータネットワークの基礎（2単位）」「データサイエンスの基礎（2単位）」「情報システムの基礎（2単位）」「ソフトウェア実習（1単位）」

＜対象者＞
関西大学総合情報学部生

＜認定部局＞
関西大学総合情報学部

関西大学社会安全学部 社会安全士
〔Societal Safety Sciences Specialist〕

＜説明＞
地震などの自然災害や運輸事故などの社会災害への備えに貢献できる人材には、地域生活と社会活動上の安全問題を読み解く能力、その問題解決に向けた方策を立案できる能力、その方策を実践するためのマネジメント能力、異分野の専門家とコミュニケーションできる能力が求められる。これらの能力を身につけ、社会の様々な分野において安全・安心を担える人を社会安全士とする。

＜取得条件＞
社会安全学部に所属する学部生で、以下の二つの条件を満たした者に対して認定する。
①指定する社会安全学部専門教育科目をGPA 2.8以上で修得すること。（GPAは指定科目のみ対象）
②学外講習（普通救命講習Ⅰなど）を受講すること。

＊「社会安全士」の詳細につきましてはこちらをご覧ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/career/qualification.html

＜対象者＞
関西大学社会安全学部生

＜認定部局＞
関西大学社会安全学部

関西大学社会安全学部 成績優秀者
〔Academic Excellence Award winner at Faculty of Societal Safety Sciences〕

＜説明＞
関西大学社会安全学部において、極めて優秀な成績を修めた者に対し、学部卒業時にその努力と結果に敬意を表して「成績優秀者」のオープンバッジを授与する。

＜取得条件＞
卒業時成績における上位３％程度の者のうち、社会安全学部教授会が成績優秀者と認め、「社会安全学部成績優秀者賞」を授与された者。

＜対象者＞
関西大学社会安全学部生

＜認定部局＞
関西大学社会安全学部

大学院プログラム（正課授業）

関西大学大学院文学研究科 日本語教師養成講座<大学院コース>

＜説明＞
関西大学大学院文学研究科では、広く人文学研究に携わる本研究科の学生が、自らの専門性を生かせる場を広げるために、日本語教育の基礎的な知識・技能・実戦経験を得ることのできるプログラムとして、日本語教師養成講座＜大学院コース＞を設置しています。

＜取得条件＞
関西大学大学院文学研究科に所属する大学院生で、下記の要件を満たす者。
（1）日本語教師養成講座〈大学院コース〉の定める必修科目・選択必修科目を含む、26単位以上を修得すること。
（2）文学研究科に所定の年限在学し、修了所要単位（博士課程前期課程：32単位／博士課程後期課程：16単位）を修得すること。
（3）博士課程前期課程の学生は、修士号を取得すること。なお、博士課程後期課程の学生は、博士号の取得を本講座の修了要件としない。
詳細は該当入学年度の研究科要項を参照のこと。
（ご参考）
＜研究科要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＜対象者＞
関西大学大学院文学研究科学生

＜認定部局＞
関西大学大学院文学研究科

関西大学大学院東アジア文化研究科 日本語教師養成講座<大学院コース>

＜説明＞
関西大学大学院東アジア文化研究科では、広く人文学研究に携わる本研究科の学生が、自らの専門性を生かせる場を広げるために、日本語教育の基礎的な知識・技能・実戦経験を得ることのできるプログラムとして、日本語教師養成講座＜大学院コース＞を設置しています。

＜取得条件＞
関西大学大学院東アジア文化研究科に所属する大学院生で、下記の要件を満たす者。
（1）日本語教師養成講座〈大学院コース〉の定める必修科目・選択必修科目を含む、26単位以上を修得すること。
（2）東アジア文化研究科に所定の年限在学し、修了所要単位（博士課程前期課程：32単位／博士課程後期課程：16単位）を修得すること。
（3）博士課程前期課程の学生は、修士号を取得すること。なお、博士課程後期課程の学生は、博士号の取得を本講座の修了要件としない。
詳細は該当入学年度の研究科要項を参照のこと。
（ご参考）
＜研究科要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＜対象者＞
関西大学大学院東アジア文化研究科学生

＜認定部局＞
関西大学大学院東アジア文化研究科

関西大学大学院文学研究科 副専攻 EU－日本学教育研究プログラム

＜説明＞
新しい人文学教育・研究を担う次世代を育成し、人文学教育研究における「学際化と国際化」をはかるために、文学研究科の副専攻として開設しているプログラム。現在、世界の日本研究と国内の日本研究との間で生じている視点・方法の隔たりを埋め、共有することを目的に、EUの協定校と協力して、次世代の若手研究者の育成を図っている。
日本学に関する多様な講義科目のほか、学外でのフィールドワークや日本とヨーロッパの各大学でのワークショップを実施している。主専攻で取り組む各自の専門性を追究した上で、異なる分野の人文学の学理や方法論などについて学び、人文学の多彩な展開の中に分野を超えて共通する、学理や方法論の存在を把握・理解することを到達目標とする。
関西大学文学部・文学研究科HP https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_let/graduate/qualification/research_program.html

＜取得条件＞
関西大学大学院文学研究科に所属する大学院生で、下記の各要件を満たす者。
【博士課程前期課程】
・文学研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、修了所要単位32単位を修得すること。また、その内、副専攻の必修科目「日本学フィールドワーク（1）」「日本学フィールドワーク（2）」4単位と、副専攻選択科目5単位以上を修得すること。ただし、副専攻選択科目には「KUワークショップ」、「EUワークショップ」いずれか1単位を含んでいること。
・修士号を取得すること。
【博士課程後期課程】
・文学研究科博士課程後期課程に所定の年限在学し、修了所要単位16単位を修得すること。また、その内、副専攻の必修科目「日本学フィールドワーク（3）」「日本学フィールドワーク（4）」4単位と、副専攻選択科目5単位以上を修得すること。ただし、副専攻選択科目には「KUワークショップ」、「EUワークショップ」いずれか1単位を含んでいること。
・博士課程後期課程の学生は、博士号の取得を副専攻の修了要件としない。

＜対象者＞
関西大学大学院文学研究科学生

＜認定部局＞
関西大学大学院文学研究科

商学研究科TASプログラム

＜説明＞
税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的とし、税理士や企業の税務・財務部門での活躍を目指す者などを対象としたプログラムである。税は企業にとってのコストであり、企業の意思決定にも影響を与える。企業経営には将来を見据えた税務・会計の戦略的な視点が求められる。TASプログラム科目の学修を通じて、税務・会計業務を適切に行い得る高度な専門知識と応用能力を習得する。

＜取得条件＞
当プログラムに関連する下記の科目群の中から 6 科目 12 単位を修得した場合に、タックス＆アカウンティング・ストラテジー・プログラムを修了したものと認定し、「タックス＆アカウンティング・ストラテジー・プログラム修了証」を授与する。
〈タックス＆アカウンティング・ストラテジー・プログラム関連科目〉
〔ベーシック〕会計学
〔メソッド〕研究方法論（定性）
〔ファイナンス・会計系〕租税法研究Ⅰ・Ⅱ、租税論研究Ⅰ・Ⅱ、会計制度論研究Ⅰ・Ⅱ、現代ファイナンス・会計研究（各テーマ）
〔その他〕ビジネス・インターンシップ

＜対象者＞
関西大学商学研究科学生

＜認定部局＞
関西大学商学研究科

商学研究科GRプログラム

＜説明＞
グローバリゼーションの加速度的な進展と電子商取引（Eコマース）の発展により、小売業の競争ダイナミズムは複雑さを増している。このような現代の小売業が直面する課題を多面的に理解するための視座と知識と経験を提供することが、本プログラムの目的である。歴史・理論・実証・ケーススタディなどの複数のアプローチから小売業を把握し、グローバルな視点から課題を解決することができる人材を育成する。

＜取得条件＞
プログラム科目として指定されている科目のうち、計9科目18単位を修得した場合に、グローバル・リテイリング・プログラムを修了したものと認定し、「グローバル・リテイリング・プログラム修了証」を授与する。
〈グローバル・リテイリング・プログラム科目として指定する科目〉
〔ベーシック〕マーケティング
〔メソッド〕研究方法論（定性）、研究方法論（定量）
〔流通・国際ビジネス系〕流通システム論研究Ⅰ、マーケティング・コミュニケーション研究Ⅰ、流通企業経営論研究Ⅰ、マーケティング論研究Ⅰ、現代流通・国際ビジネス研究（グローバル・リテイリング）
〔その他〕合同演習（グローバル・リテイリング）、ビジネス・インターンシップ

＜対象者＞
関西大学商学研究科学生

＜認定部局＞
関西大学商学研究科

関西大学大学院外国語教育学研究科 日本語教育専門家養成講座

＜説明＞
関西大学外国語教育学研究科「日本語教育専門家養成講座」は、日本語教育機関の告示基準（法務省入国管理局平成28年7月22日策定）第１条第１項第13号ロで求められた日本語教育に関する科目26単位以上を修得する教育課程であることを証します。
研究対象言語・専攻する領域にかかわらず受講することができる、日本語教育の専門家の養成講座です。受講生は日本語教師養成に必要な教育内容として文化庁により提示されている領域に沿った、「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」「その他」の6つの科目群からそれぞれ必要単位を満たして履修することにより、大学院レベルの高度な専門的知識を学び、実務に必要なスキルを身につけています。必修科目には、実際の日本語学習者を対象とした教育実習も含まれています。

＜取得条件＞
・外国語教育学研究科学生
・指定科目26単位を修得
・詳細は該当入学年度の研究科要項を参照のこと
（ご参考）＜研究科要項掲載　教務ガイド KAN-CAN！＞
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/

＜対象者＞
関西大学大学院外国語教育学研究科学生

＜認定部局＞
関西大学大学院外国語教育学研究科

（ご参考）正課外活動

【2024】関西大学ソーシャル・コミュニケーションリーダー養成講座

＜説明＞
プログラム内での「理論の学習と実践」を通して以下の能力を養成する。
●目的や対象に適した「コミュニケーション環境（空間設定、非言語コミュニケーション、ファシリテーションの方法）」を自ら設定し、実践する能力
●ワークショップや会議など、多様な立場の参加者との集合知形成が必要な場において、状況を俯瞰的に観察し、自らの動的判断によって適切な対応策を選定し、実践してみる能力
●受講生同士が本講座で学び・実践する経験を経て、コミュニケーションをデザインし、実践することにより大小のコミュニティを活性しようとする人材のネットワークを自ら構築する能力

＜取得条件＞
講座時間（42時間）の６割以上の出席を条件とする。
＊「ソーシャル・コミュニケーションリーダー養成講座」の詳細につきましてはこちらをご覧ください。
http://www.accd-c.org/SCL/

＜対象者＞
学部生・大学院生・社会人等、年齢や職業は問わない（ただし、学部生には特別割引あり）

＜認定部局＞
関西大学事業推進局

関大マイボトルアンバサダー

＜説明＞
関西大学では2024年度から象印マホービン株式会社の協力のもと、「関大マイボトルECOひいきプロジェクト」を実施しています。
本プロジェクトは、学内外におけるマイボトルの推進を目的に各種プログラムの企画・運営を行い、プラスチックごみの削減や使い捨て容器の生産・輸送に必要な資源の節約を目指し活動を行います。
本プログラムはSDGsラーニングプログラムの正課外プログラムとしても認定されており、年間を通じてアンバサダーとして活動された方には、「関大マイボトルアンバサダー修了証（オープンバッジ）」を発行いたします。

＜取得条件＞
合計60P以上かつ活動報告書を提出した者
◆キャンパスサポーター定例会出席：1回につき5P
◆大学が指定する事業への参加（中間報告会・公式イベント等）：1回につき10P
◆活動報告書　　：提出必須

＜対象者＞
関西大学に在籍する学部生・大学院生のうち、SDGsキャンパスサポーター登録者

＜認定部局＞
関西大学SDGs推進プロジェクト

【履修証明プログラム】海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム〈アドバンストコース〉

＜説明＞
本プログラムは、約10ケ月間で120時間以上の授業を履修する学校教育法第105条が定める「履修証明プログラム」であり、修了者には所定の履修証明書を交付しています。また、本履修証明プログラムは、文部科学省による「職業実践力育成プログラム（BP）」として文部科学大臣が認定しています。カリキュラムは、ASEANを中心とした現地の各種情報、地理歴史、宗教文化、政治経済情勢等の専門科目に加えて、海外経営に必要な高度経営管理能力を身に付けるための実践的な科目で構成されています。身に付けられる知識は、「経営・マネジメント」「ASEAN諸国の政治経済」「ASEANの宗教・文化・歴史」「会計・税務」に関する知識です。得られる能力は、高度経営管理能力として、以下の１２の能力を育成しています。「異文化適応力」「知識理解力」「人間関係力」「経営交渉力」「問題認知力」「批判的思考力」「主体的判断力」「自己調整力」「問題解決力」「積極的行動力」「リーダーシップ力」「革新的創造力」

＜取得条件＞
学校教育法が定める履修証明プログラムである、本プログラムの修了要件は、100点満点で60点以上の成績を修めた者を合格とし、プログラムを構成する以下の30科目（158時間）の中から、合格した科目の授業時間数が、120時間を越えることとしている。
（実践基礎科目：９科目：43時間）
「組織・運営戦略」「経営戦略」「異文化コミュニケーション」「子会社経営で直面する課題（ケーススタディ）」「人を動かす論証型プレゼンテーション」「交渉学」「マーケティング戦略」「経営・人事戦略」「伝わる文章作成技法」
（専門科目：13科目：69時間）
「ASEANの宗教・文化」「ASEANの地理・歴史」「ASEAN経済」「ASEAN発展論」「グローバル経済」「中国経済」「日本的経営思想」「海外経営のための企業会計入門」「海外経営のための管理会計」「海外経営と国際租税法」「海外経営のための会計情報の利用」「ASEAN法律制度」「海外展開のためのM&A」
（実践応用科目：7科目：42時間）
「海外事業体(子会社）における経営者の責任と役割 」「海外事業体(子会社）におけるコンプライアンス体制」「海外子会社の経営者として必要な能力」「グローバル企業の人材育成」「海外派遣者のためのストレスマネジメント」「子会社経営で直面する課題-人事労務政策-」「経営者の戦略的役割」
（テーマスタディ：２テーマ：4時間）
「変わる世界、変わる日本！～変わりゆく大国、中国～」「海外赴任者との接続授業」

（ご参考）[文部科学省 大学等の履修証明制度について HP]
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/
（ご参考）[文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）HP]
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/index.htm

＊「[関西大学 海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」の詳細につきましてはこちらをご覧ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/relearn/

＜対象者＞
社会人

＜認定部局＞
関西大学教育推進部 社会人学び直し大学院プロジェクト

【履修証明プログラム】海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム〈ベーシックコース〉

＜説明＞
本コースは、約10ケ月間で70時間以上の授業を履修する学校教育法第105条が定める「履修証明プログラム」であり、修了者には所定の履修証明書を交付しています。カリキュラムは、ASEANを中心とした現地の各種情報、宗教文化、政治経済情勢等に加えて、海外経営に必要な管理能力を身に付けるための実践的な科目で構成されています。身に付けられる知識は、「経営・マネジメント」「ASEAN諸国の政治経済」「ASEANの宗教・文化」「会計・税務」に関する知識です。得られる能力として、海外経営に必要な管理能力である、以下の１２の能力を育成しています。「異文化適応力」「知識理解力」「人間関係力」「経営交渉力」「問題認知力」「批判的思考力」「主体的判断力」「自己調整力」「問題解決力」「積極的行動力」「リーダーシップ力」「革新的創造力」

＜取得条件＞
学校教育法が定める履修証明プログラムであり、本コースの修了要件は以下のとおりである。
① 必修科目及び専門科目のうち選択した系のすべての科目に合格し、合格した科目の時間数が70時間以上であること。
② 原則として、授業を受講し、60点以上(100点満点)の成績を修めた者を合格とする。

（教養科目：10科目：50時間）
教養(基礎）「異文化コミュニケーション」「人を動かす論証型プレゼンテーション」「交渉学」「ASEANの宗教・文化」「伝わる文章作成技法」
教養(専門）「グローバル企業の人材育成」「海外経営のための企業会計入門」「ASEAN経済」「グローバル経済」「経営戦略」

（専門科目：３系列：全9科目：50時間）
経済・法律系 「ASEAN発展論」「海外子会社の経営者として必要な能力」「海外経営と国際租税法」
経営系 「海外経営のための管理会計」「日本的経営思想」「国際マーケティング」
マネジメント系「海外派遣者のためのストレスマネジメント」「海外事業体(子会社）における経営者の責任と役割 」「子会社経営で直面する課題(ケーススタディ)」

（ご参考）[文部科学省　大学等の履修証明制度について　HP]
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/
[関西大学　海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラムHP]
https://www.kansai-u.ac.jp/relearn/

＜対象者＞
社会人

＜認定部局＞
関西大学教育推進部 社会人学び直し大学院プロジェクト